

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年10月7日 NO.47

花ちゃん 「ねえ、オー君。わたし大発見（だいはっけん）しちゃった。」

オー君 「大発見？花ちゃん。何を発見したの。」

花ちゃん 「あのね、わたし、オシドリとヨシガモを見せてもらったでしょ。その時に、私、発見したの。」

オー君 「だから、どんなことを発見したの。」

花ちゃん 「あのね、オシドリとヨシガモの両方の鳥を見たでしょ。そしたらね、オシドリの足もヨシガモの足も両方ともよく似ているのよね。それで、気がついたの。マガモもそうだけど、カモの仲間は、みんな水の中で生活しているでしょ。水の中で泳ぎやすいように、足にはひれがついているのよ。」

オー君 「なるほど。すげーや。花ちゃんの大発見だ。」

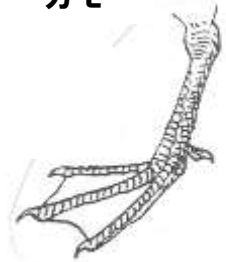
花ちゃん 「それだけじゃないわ。そうやって、いろいろな鳥の足を見たのね。たとえば、アオサギという鳥の足の長さを考えてみたら、アオサギという鳥は、スズメなんかとくらべても足が長いことに気がついたの。どうしてかなと思ったら、サギの仲間はみんな水辺で生活するから、足が短いと羽がぬれてこまるから長いのだということが分かったわ。」

オー君 「なるほど。すげーや。すげーや。花ちゃんの大発見だ。」

花ちゃん 「まだまだあるわ。オオタカやワシの仲間の足には大きなすどいつめがあることが分かったの。」



カモ



アオサギ



オオタカ

つめがないとせっかく取ったえものを落としてしま
うからじゃないかなと考えたの。」

オオタカの足

オー君 「なるほど。すげーや。すげーや。すげーや。
花ちゃんの大発見だ。」

花ちゃん 「まだまだまだあるわ。空を飛ぶことよりも地面の
上をよく歩くキジのような鳥の足は、ふつうの鳥
の足とちがって、太めでしっかりとした足なのよ。」

オー君 「なるほど。すげーや。すげーや。すげーや。
すげーや。花ちゃんの大発見だ。」

花ちゃん 「まだまだまだまだあるかなと思って、図鑑をペラ
ペラとめくっている時に大発見をしたの。コゲラ、
アカゲラ、アオゲラ、クマゲラなどのキツツキの
仲間は、みんな足が前2本、後ろが2本なの。」

オー君 「それが、どうかしたというの。」

花ちゃん 「キツツキの仲間は木に垂直（すいちよく）で90度
に止まるのよ。それで、ふつうの鳥みたいに足が3
本と1本では落ちちゃうでしょ。落ちないためにも
足が2本と2本になってるんじゃないかと考えたの。
すごいでしょ。花ちゃんの大発見よ。」

モンタ博士 「すばらしいね。すごいね。感心です。よくそこまで
観察したね。花ちゃんは鳥博士だね。鳥は種類や生活
場所のちがいによって、足の形がいろいろあるんだね。
長い長い時間をかけて、鳥も生活しやすいように足
の形や様子（ようす）を変え（か）てきたんだね。
こういうのをむずかしい言葉で『進化（しんか）』とか
『適応（てきおう）』というんだ。自然の世界というの
はとても不思議だ。まったくむだがないんだね。」



キジ



キツツキ

